

「地球観測の推進戦略」の実施状況のレビューについて

平成 24 年 12 月 27 日
内閣府
政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付
参事官（グリーンイノベーショングループ）

地球観測に関する基本的な考え方を示した「地球観測の推進戦略」（以降「推進戦略」と呼ぶ。）は、平成 16 年に今後 10 年程度を目処として策定され、本年で 8 年経過したところである。そのため、以下の通り文部科学省 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 地球観測推進部会（以降「推進部会」と呼ぶ。）からの報告を受け、それを踏まえて推進戦略の見直しを検討する。

1. 推進戦略策定の経緯

平成 15 年に開催された第 1 回地球観測サミットでは、国際協力による地球観測システムの構築を提唱した「地球観測サミット宣言」が採択され、また平成 17 年に開催された第 3 回地球観測サミットでは、世界規模の取組として「GEOSS（Global Earth Observation System of Systems）10 年実施計画」がとりまとめられた。

一方、総合科学技術会議は、我が国における地球観測に関する取組の基本的な考え方を明確にするため、10 年程度を目処とした戦略的に取り組むべき重点課題・事項等を平成 16 年に推進戦略として策定した。

2. 地球観測の実施体制

文部科学省は、推進戦略を受け、科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会に地球観測推進部会を設置し、推進戦略等に基づいた「地球観測の実施方針」と共に、事業実施省庁等と連携して「地球観測の実施計画」（以下「実施計画」と呼ぶ。）を毎年策定している。一方、総合科学技術会議は、推進部会事務局を通して事業実施省庁からの進捗状況報告を受け、実施計画のフォローアップを行っている。（別添－1 参照）

3. 状況の変化について

推進戦略策定から 8 年経過した現在、以下のような種々の状況変化が生じている。

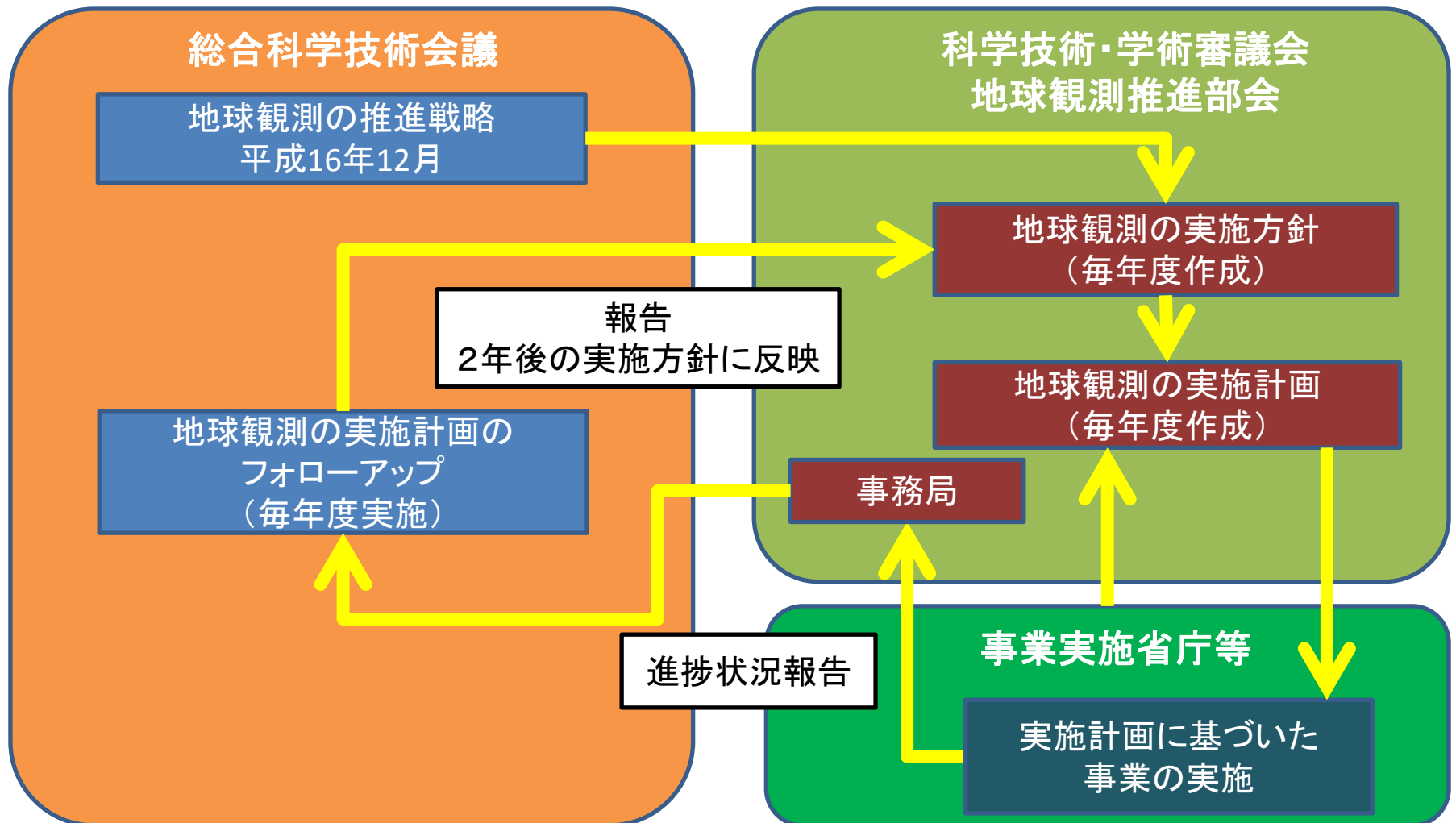
- ・「ビッグデータ」に代表される技術革新
- ・2015 年以降の GEOSS 継続へ向けた社会からのニーズを踏まえた地球観測活動の在り方に関する国際的議論
- ・ICSU（International Council for Science: 国際科学会議）による Future Earth（地球規模課題へ取り組むための総合的なプログラム）の立ち上げ
- ・ゲリラ豪雨等の地球環境問題と大規模災害への対応

そのため、推進部会から過去 8 年の取組全体に対する報告を受け、これに基づき総合的なレビューを行うこととし、それを踏まえて推進戦略の見直しについて検討することとする。（別添－2 参照）

以上

地球観測の推進戦略における 総合科学技術会議の役割

別添－1



(「地球観測の推進戦略」(平成16年12月27日総合科学技術会議決定)により実施)

「地球観測の推進戦略」（平成 16 年 12 月 27 日総合科学技術会議決定）より抜粋

<略>

I. はじめに

<略>

本推進戦略は、本年 3 月の「今後の地球観測に関する取り組みの基本について 中間取りまとめ」で定めた 3 つの基本戦略と長期的な視点の下で、我が国が地球観測に取り組むに際しての考え方、戦略的に取り組むべき重点課題・事項等を、今後 10 年程度を目途として示したものである。

<略>

5. 統合された地球観測システムの推進体制・組織

（１）推進体制・組織に求められる機能

<略>

③上記の実施方針に基づく事業の進捗状況を、関係府省の協力を得ながら、統合された地球観測システムを運用する観点から評価し、次年度以降の地球観測の実施方針の策定に反映させること。

<略>

（２）推進体制・組織のあり方

<略>

総合科学技術会議は、上記の（１）の③の機能として、実施方針とそれに基づく事業の進捗状況について同審議会※からの報告を受けるとともに、必要に応じて関係府省・機関からも報告を受けて総合的な評価を行うこと等により、統合された地球観測システムの運用状況をフォローする。このような総合的な評価及び国内外の動向を踏まえて、「地球観測の推進戦略」の見直しを必要に応じて行うものとする。

※：文部科学省の下に置かれている科学技術・学術審議会の意